

理科(物理・化学・生物・地学) 京都大学 (前期)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・論述・選択・描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)  
 設問数、計算量ともに増加した。

出題の特徴

空所補充の設問以外に描図、論述問題が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述) 問形式 (描図)	力学 (物体系の 運動)	物理	問題の状況を正確にとらえ、解答していく必要がある。	やや難
II	空所補充 (記述・ 選択) 問形式 (論述・ 描図)	電磁気 (電磁誘導・ 単振動)	物理	問2については、単振動の初期条件に留意すること。	やや難
III	空所補充 (記述) 問形式 (論述)	熱 (U字管内の 気体の変化)	物理	(4)は気体の状態変化と、変化途中の平衡状態での安定性の考察とを区別して考えることがポイントである。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。